



大阪北ブロック 新大阪支部
 監査法人やまぶき 若林 準之助

出張や旅行の際に新幹線を利用される方も多いと思いますが、今回は大阪の玄関口としての役割を果たしている新大阪駅とその周辺についてご紹介させていただきます。



新大阪駅全景



東海道山陽新幹線と九州新幹線

新大阪駅は東海道新幹線の開業に合わせて昭和39年に開業し、東海道新幹線、在来線、大阪市営地下鉄御堂筋線の乗換駅としてスタートしました。その後、山陽新幹線の開業、山陽・九州新幹線の乗り入れ開始に伴い、現在は東京から鹿児島までを結ぶ新幹線大動脈の基幹駅としての機能を担っており、毎日大勢の利用客で賑わっています。駅の周辺については、出張の利便性の高さを意識してかオフィスビルやビジネスホテルが目立ちますが、一方でマンションや学校もあり、一大都市を形成しています。このように交通の要衝として発展してきた新大阪駅ですが、今後さらなる発展が期待できます。

まずはJRおおさか東線の延伸による新大阪駅乗り入れが予定されており、東大阪エリア、梅田北エリアへの利便性が高まります。



立体交差化工事が進む淡路駅付近でおおさか東線として旅客化が予定される貨物線をくぐる阪急電車

また、現在阪急淡路駅付近の連続立体交差化工事、土地区画整理事業が進められており、これにより阪急のダイヤの改善はもちろんのこと、阪急の線路で分断されていた地域の統合、高架化による踏切廃止で大型道路の整備・延伸が期待できるため、比較的閑静だった新大阪駅東口エリアの再開発の機運が高まっています。



既に阪急新大阪連絡線用の準備が施されている御堂筋線の新大阪駅

さらに、長らく実現していない阪急新大阪連絡線の去就や、リニア乗り入れ計画など、まだまだ新大阪駅に関する話題は尽きません。このように、未来に向けてさらなる発展が期待できる新大阪駅周辺ですが、阪急淡路駅近くの東淡路南公園には国鉄史上最大級のEH10形電気機関車が唯一保存されています。



東淡路の公園でひっそり眠る名車EH10

日本の物流の発展を支えた名車が今でも見守り続けている新大阪エリア。今後大きく変わろうとしている街ですので、ぜひ一度下車して周辺を散策してみてください。

夢の超特急ひかり、時速210キロ。初めに走ったのはオバQとニックネームがついた0系車両でした。食堂車があり、あそこで何か食べたいなと憧れたものです。今はN700Aのぞみが東京博多を走ります。リニューアルが終わり明るくなった新大阪駅。ふっとどこかへ行ってみたいくなりませんか。（編集西岡）